

国立大学法人群馬大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和7年1月31日(金) 国立大学法人群馬大学 事務局棟5階特別会議室	
委員	委員長 北野 敦則 (前橋工科大学教授) 委員 小磯 正康 (弁護士) 委員 萩原 裕司 (公認会計士、税理士)	
審議対象期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
抽出案件(合計)	5件	(備考) 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立ての審議は無し。 個別審議については、事務局から説明を行い、質問に対して回答した。
工 事(小計)	5件	
一般競争入札(政府調達に関する協定対象工事)	0件	
一般競争入札(上記工事を除く)	5件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	0件	
設計・コンサルティング業務(小計)	0件	
公募型プロポーザル方式	0件	
簡易公募型プロポーザル方式	0件	
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0件	
標準型プロポーザル方式	0件	
一般競争入札	0件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問 別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	特になし	

意見・質問	回答
<p>1. 群馬大学において発注した建設工事について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 群馬大学において発注した設計・コンサルティング業務について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3. 個別審議案件について</p> <p>【群馬大学（昭和）共用施設棟等空調設備改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1者、2者入札など、いつも入札参加業者は少ないのか。 ・入札公告の方法はどのようにしているのか。 ・昨今では設備関係の物価高騰が続いていると思われるが、低入札で取引ができる理由は何か。 ・1者が資格なしの理由は何か。 <p>【群馬大学（上沖）基幹整備（屋外排水設備等）工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札を辞退した会社が2社あるが、辞退した理由は何が考えられるのか。 ・不落随契協議の際の具体的な協議内容はどのよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2年程前までは、2～3者程度の入札参加者数が続いていた。最近は、特に技術者不足の影響で入札業者が集まりにくい傾向がうかがえる。 ・大学、文科省のHPと群馬建設新聞の紙上で公告している。 ・空調機専門の業者であり、今回の工事において空調機の購入台数がとても多かったので金額を抑えてもらえたと考えている。 ・本件は管工事A又はB等級を競争参加資格の条件としているが、当該者はC等級であったため資格なしとなった。 <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に複数の入札参加表明を行い、配置予定技術者が先に決まった別の工事に従事することになった可能性が考えられる。 ・入札者からの入札額の内訳と、発注者側の予定価格内

<p>うなものか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格の積算はどのようにしているのか。 ・ 2 回目の入札を辞退した理由は何が考えられるのか。 <p>【群馬大学（桐生） 8 号館 S 棟等照明設備改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低入札価格調査を実施しているが、そもそも当初見積額と予定価格の差が大きい理由は何か。 ・ 契約したいために低入札を行い手抜き工事が行われる可能性が考えられるが、竣工後の点検・監督は行っているのか。 ・ 物価変動による契約後の金額の交渉はあるのか。 <p>【群馬大学（昭和） 中央機械室屋上防水改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不落随契協議を行っているが、どの項目の金額を下げるようになったのか。 <p>【群馬大学（医病） 北病棟スタッフステーション照明設備改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競争参加資格の実績基準に「2008 年度以降」とあるのは、どのような観点から設定されたものなのか。 ・ 低落札率であるが、低入札調査を実施していないのは予定価格が 1,000 万円を超えていないためか。 	<p>訳の差分について詳細をヒアリングし、例えば建設資材の見積先などの情報共有を行って、更に金額を下げられる余地があるかなどを協議している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省の積算基準に基づいて行っている。 ・ 1 回目の入札時点では、これ以上の減額は厳しいと判断したなどの金額面での理由が考えられる。 <p>・ 予定価格の積算は文科省の積算基準に基づいて行っている。地元の業者であるため現場事務所の設置が不要であり、機材もとても安く納入できたことなどが、金額に差が出ている理由と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月ごとに工事の進捗を確認している。また、写真での確認や現場確認を行っている。 ・ 原則、契約金額で工事してもらうが、長期間の工事の場合、物価スライドを加味して変更契約に応じる可能性はある。 <p>・ 仮設事務所が不要であることなど、仮設費の削減可能性があり、協議の結果金額を下げるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省の基準に基づき通常過去 10 年以内の実績を原則としているが、より多くの入札業者を確保するため、運用上で 15 年以内としている。 ・ そのとおり。
--	---

<ul style="list-style-type: none">・全体的に1者応札が多く競争入札の意味が失われているように思われるが、最近の入札の傾向に変化はあるか。・関東甲信越に地域を設定しても入札業者が集まらないのか。・入札業者を集めるために、今後の対策は何かあるか。 <p>4. 取引停止等の措置状況について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし <p>5. 再苦情の申立状況について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし <p>【講評】</p> <ul style="list-style-type: none">・入札参加業者が少ないため今後も対策をお願いしたい。その他、全体としては適正な入札手続が取られている。引き続き適正な手続をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none">・競争入札は競争性を確保し、より安価に質の高い工事を行うのが趣旨であるが、最近では全体的に受注者側がより条件の良い工事案件を選ぶ傾向が強くなり、建設業者側の買い手市場の傾向である。・そのとおり。また、参加条件を緩和しても入札業者が集まらない状況である。・工事発注見込みを出し、できるだけ早く業者に年間の受注計画を立てやすくすることで、個々の入札参加を促す必要があると考えている。
--	---